■ □ ■ 畜産環境アドバイザーのひろば ■ □ ■

「 愛知県の畜産環境アドバイザーの状況について 」

愛知県農林水産部畜産環境・経営グループ
技師 野田正人 （会員番号0076）

●自己紹介

皆さん、はじめまして、愛知県農林水産部畜産課環境・経営グループの野田と申します。

私は愛知県に採用されて（畜産職）、ちょうど10年目、この11月で32歳（エッ、もうそんな年！）になります。採用されてから7年間は、県出先機関である県事務所（尾張1年、豊田6年）に在籍しておりましたが、ひょんなことから平成10年4月から県庁勤務となり、現在に至っています。

担当している仕事は、主に畜産環境関係の非公共事業と畜環リースです。

●本多先生との出会い

本多先生に出会ったのは、平成9年12月に岐阜県で開催された東海ブロック畜産環境保全研修会（汚水処理技術）のことでした（当時：県豊田事務所所属）。講演の中で「行政も農家も、生ふん尿を農地へ還元なんてことをいつまでも言っていてはダメだ！ふんは堆肥化、尿汚水は浄化処理すべきだ！農家のための処理施設！」と力説されていたのを今でもはっきり覚えています。丸一日の研修会を全部集中して聞くのは、私には非常に困難なことでしたが、この時だけは完全に本多先生の話に集中していました。

そして、研修後には私のモチベーションは高くなっていました。「神奈川県にはすごい人がいるんだなあ！ 畜産環境はやりたがる人が少なく人材が不足しているようだし、他に得意分野があるわけではないので、ちょっとまじめにやってみるか！」ということで、平成10年3月に神奈川県畜産試験場へ視察に行き（どっかの若造が1人で押し寄せて来たにも関わらず、半日間も丁寧に対応してもらえ感激！）、神奈川県方式（農家のための処理施設）を取り入れてみようと試みました。結局、その4月に県庁へ転勤になってしまったので、志半ばで頓挫してしまいましたが、赤い糸で引かれたように県庁で環境を担当することになっていました。

●第1回堆肥化施設の設計計算・審査技術研修会
（現：畜産環境アドバイザー養成研修会）への参加

このような研修会が開催されるのを待ち望んでいた人はたくさんいると思いますが、私もその一人でした。その年は、県庁1年生で不慣れで県事務所時代には想像がつかなかった膨大な書類と悪戦苦闘していた（育成牧場から牛舎に繋がれ、毎日、搾乳のノルマを課せられた乳牛の心境）こともありますが、各事業主体等から提出されてきた規模積算のチェック等に四苦八苦していましたし、また、講師は本多先生（当時：神奈川県畜産試験場）が務められるということだったので、自費・年休も覚悟うえ、参加したいと思いました。

ところが、研修会の開催時期は平成11年2月1日～5日で、本県はちょうど会検農林2課（公共事業）を2月中旬、会検農林3課（非公共事業等）を3月上旬に控えていました（大当たり！）ので、

研修会を受講するには厳しい条件下でありました。しかし、担当内で相談した結果、「長期的視野に立てば絶対に研修会を受けるべき」と判断し、県庁からは私が代表で受講することになりました。当時、直属の上司であるI主査、隣席のK技師は、快く私に「あとは俺達に任せて、行って来いよ」と言ってくれました。

また、私の他に、農業総合試験場（中谷）、設楽家畜保健衛生所（鈴木）、東三河事務所（現畜産課：豊島）の計４名で参加することになりました。

●研修会を受講して

研修会を通じて、基礎数値の意味、正しい数値の設定・計算方法等を学び、今まで自分がやってきた設計計算のチェックが・・・であることに愕然としましたし、また同時にそれまでモヤモヤしていたものが一気に吹っ飛んだ感じでスッキリしました。

研修会終了後には、すっかり設計計算のチェックに馴染み、楽しくできるようになりましたが、反面、帰りの新幹線の中で、これからやらなければならないこと（責任の大きさ）、今まで自分がチェックした設計計算のことを考えると気が重くなりました。

しかし、本多先生が研修会の最後に「あなたたちは各都道府県へ帰ってから、大きな壁（仕事・責任）が待っている。大変だと思うが、これだけの仲間がいるんだから皆でがんばろう！」と締めたとおり、私には３人の心強い仲間（同志）がいましたので、県へ帰ったら同志３人の力を借りて何とかしてしてやろうという気持ちになれたのは幸いでした（他の都道府県は１人だけのところが多かった）。

余談になりますが、堆肥化マニュアル109頁の開放・回行型堆肥化施設の計算の誤りに気づいていた人が本県にはいまして（平成９年、執筆者に抗議の電話を入れていた）、「おお、うちの県にもすごい人がおるなあ」と思いました。

●研修会から戻って

研修会から戻って、会検農林2課の受験を間近に、会検農林3課を1ヶ月後に控えておりましたので、研修会で身につけた知識・技術が早速役立ちました。

会検の受験檢のため少し遅れてしまったものの、研修会で学んだこと（真実）を１日でも早く皆に伝達する必要性を感じていましたので、同志３人の協力も得て平成11年４月に県関係機関等の指導者を参集し、伝達研修会を開催しました。伝達研修会は、受講者から「大変参考になった」と好評ではあったものの、「今更そんなこと言われても困るがや！　これから、どうしろっちゅうんだ！（名古屋弁で失礼します）」という厳しい意見も出されました。しかし、私は、「間違いをそのままにしておくのはイヤでしたし、これから少しずつ変えていくしかない」と思いました。

その後、噂どおり本多先生は機構へ移籍され、研修会名も「畜産環境アドバイザー養成研修会」となり、本県も平成11年８月に愛知県版を開催して頂きました。我々が４月に行った伝達研修会では、講師の役不足でうまく伝えられなかったことも多かったので、本研修会により県関係機関等の指導者の理解度が進み、やっと皆の共通認識（ベース）ができた感じでした。しかし、受講者は真実を理解し、正しい設計計算チェックができるようになったものの、現場に戻ると従来の計算方法等を否定された業者と軋轢が生じたりして、大変だったと聞いています。県庁へも、「何ともならんがや！お前が直接業者とやってくれ！」といった苦情がきたりして、我慢の時期（産みの苦しみ）でした。

●現状（～時が流れて～）

平成12年４月には汚水処理の愛知県版を開催して頂き、アドバイザーの人数も60名を超え、県関係機関の指導者を中心に共通認識が浸透した結果、徐々にではありますが畜産農家等に対し適切な助言・指導ができるようになったと感じています。現場レベルでは、土地・金等の制約がありますので、全てアドバイザー研修どおりとはいきませんが・・・。

補助事業等の設計計算のチェックは、各地域のアドバイザーが中心となり行い、問題のある案件は県庁段階でも取り扱う体制が整いつつあります。また、最近はアドバイザーが基本設計計算を行い、農家も同意の上、業者に依頼するようなパターンも出てきています。

環境保全現地指導も、各地域のアドバイザーが中心になり積極的に指導がされるようになったと思いますし、自信に満ちた意見・指導がされるようになりました。

●今後の課題

今後の課題は、現在、本県には延べ98名（実72名）のアドバイザーが登録されていますが、本県の目標「延べ300人（実100名）」を達成するのと、何と言っても一番の課題は、愛知県版の本多先生を育成することではないかと思います。いつまでも本多先生を頼っていては、本多先生も次へのステップを踏めないと思いますし、本多先生が現役のうちに自立していく必要があると思います。

また、畜産の側も、施設をたくさん整備するだけにとどまらず、堆肥のよさのPRして使ってもらえるように努力をしていかなければならないと思います。折角いい施設を整備しても糞詰まりになっては意味がありませんので、堆肥利用の専門家（堆肥利用アドバイザー）も養成していく必要があるではないでしょうか。

●最後に

本多先生には本当に感謝しています。私に動機付けしてくれたのに始まり、数々の研修会・視察等で懇切丁寧にアドバイス（パワー）を頂き、今の自分があると考えています。先にも述べたとおり一刻も早く自立して、恩返しできるようにがんばりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

それから、岩崎理事長さん、畜産環境アドバイザー養成研修会は13年度までとなっておりますが、是非延長して、愛知県版をもう2、3回（堆肥化・悪臭）ぐらい開催させてください。理事長さん自らも第１回研修会に主催者兼受講生として参加し、その良さはご存じのはずだと思いますので（覚えてないでしょうが一緒に風呂にも入った仲ですし）・・・、今後ともよろしくお願いします。

K. I主査作

No3
No3
No3